

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：33910

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03024

研究課題名(和文) 現代韓国における民俗文化・環境知識としての風水地理思想の評価と伝統的景観の再構成

研究課題名(英文) A Study on Evaluation of Feng shui Thought as Folk Culture and Ecological Knowledge and Reconstruction of Traditional Landscape in Modern Korean Society

研究代表者

渋谷 鎮明 (SHIBUYA, Shizuaki)

中部大学・国際関係学部・教授

研究者番号：60252748

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、現代韓国社会における風水思想の再評価の展開と伝統的景観への影響について研究を行った。

韓国においては、風水地理思想は依然として取るに足りない迷信として捉えられているが、環境、伝統文化、民俗文化という側面においては、肯定的な評価を受けている。東アジアにおいて、韓国のみが唯一コンスタントに風水の学術研究を行っており、一般市民の読む新聞にも、風水用語を多く用いたサイドストーリー記事が登場する。他方、国家的な環境政策等においては、風水の概念は間接的に用いられている。

研究成果の概要(英文)：This research is considered evaluation of Feng shui thought and reconstruction of traditional landscape in modern Korean society.

In Korea, Feng shui thought still regarded as trivial superstition, but in terms of the environment, traditional culture, folk culture, it is receiving positive evaluation.

In East Asia, only Korean scholars are consistently doing academic research on Feng Shui. And a side story article using many feng shui terms appears in newspapers in Korea. On the other hand, in the national environmental policy, the concept of feng shui is indirectly used.

研究分野：人文地理学

キーワード：韓国 風水思想 地理思想 民俗文化 環境知識 環境政策 都市・建築計画 不動産学

1. 研究開始当初の背景

中国起源の風水地理思想は、韓国(朝鮮)においては儒教の論理とも結びつき、朝鮮王朝時代より子孫の繁栄のために良い墓の位置を探ることが中心的な目的であった。そのため、韓国の経済成長期には「迷信」とされ批判を受けてきた。

しかし1990年代以降、次第に韓国人の基層的な自然観・地理観を形作るものとして、あるいは韓国の伝統的な民俗・文化として、学术界を手始めに肯定的な評価もなされるようになった。

特にそれは、風水研究の第一人者である人文地理学者崔昌祚の著した『韓国の風水思想』(1984)等により、風水地理思想が朝鮮王朝時代までに国土や環境をとらえる独特な方法をもつ「伝統的地理学」として評価されたことが大きい。

代表者の渋谷は、東アジア研究を行う人文地理学者として、長く韓国を中心とした東アジアの風水研究を行ってきており、朝鮮半島における風水理論や様相、朝鮮時代の風水地理思想やそこで用いられる「気」や「脈」の概念が国土認識や古地図作成に及ぼした役割、風水的環境の欠陥を補う手法である「裨補」思想と人工林の研究を行った。これらの研究について、論文「朝鮮時代末期の郡縣図の表現方法に見る風水地理的地形認識」(1997)などにて発表をしてきた。

このような研究を行う中で、2000年代に入り、韓国社会における風水思想の位置づけが急速に変化していることを理解するに至った。それまで「迷信」とされ学术研究も難しかった風水地理思想は、行政の環境政策や文化財保護、民間の環境保全活動や建築計画などにその論理や内容が用いられるようになってきている。例えば韓国の脊梁山脈の自然環境を保護する「白頭大幹保護法」に見られる「白頭大幹」の語は、きわめて風水や「脈」の思想と近似した表現である。また、そればかりか現実の韓国の伝統的景観にも再評価された風水地理思想の論理が影響する例が見られるようになった。例えば風水地理思想で説明される「伝統的な村の林」が顕彰された後、拡大整備されたり、同様にして歴史のある都市の建築物や地形などが復元・整備される例も多い。

また、韓国の一般市民には、風水に関する一定の理解があり、現代の新聞記事などでもそれが確認される。たとえば大統領選挙の報道では、サイドストーリーとして必ず候補の親の墓や生家の風水の良し悪しが述べられ、読者側に一定の風水知識があることが理解される。このことが上述の風水地理思想に対する評価や景観の再構成を支えていると考えられる。

このような学術・行政・一般社会の三つの側面は互いに関連しながら、韓国社会における伝統地理思想、とりわけ風水の再評価と新たな展開を形作りつつある。たとえば、今回

研究協力者を依頼する韓国人地理学者崔元碩氏(慶尚大学校・研究教授)は、今年度『伝統生態と風水地理』と題される共著の学術書を刊行した。ここでは風水の持つ自然観や、風水地理思想の論理で見た欠陥を修正するための「裨補」思想が再評価され、一種のオルタナティブな環境思想として、実践的なエッセンスの抽出が行われようとしているものと思われる。

このように、東アジアの伝統的な地理思想である風水地理思想が、日本と関係の深い隣国である韓国において現在、その扱いが急速に変化している点について、「もう一つの地理」のありようを知るべく、地理思想研究の立場より追究する必要があるものとするに至った。

2. 研究の目的

上述のように、現代の韓国においては、以前は迷信として批判されていた風水地理思想が、1990年代以降民俗文化や伝統的環境知識として再評価され、政府の環境政策や民間の建築計画にも用いられて一部現実の景観に影響を与えるなど、新たな、しかも急速な変化を見せている。

本研究では、学術・行政・一般社会に分けて、このような現代韓国社会における風水思想の再評価の展開と伝統的景観への影響について、韓国語の文献資料や現地調査から明らかにする。また、風水地理思想のような伝統地理思想から、いかにして利用可能な論理を抽出しようとしているのかを探究する。

3. 研究の方法

本研究では上述のように、(1)学術研究の展開、(2)国家・行政による伝統的地理思想の論理の利用、(3)地域・一般社会という3つの側面から、風水の再評価と伝統的景観への影響を明らかにする。具体的には、それぞれ(1)学術論文等の文献研究と研究者や関係者へのインタビュー、(2)国家行政機関、各種団体の報告書の分析と、担当者へのインタビューおよび現地調査、(3)現地調査と現代の地方史に関する文献研究、風水関連用語が用いられる新聞記事などの分析を行う。なお研究対象として取り扱う時期は、風水研究が本格化した1980年代以降、現在までの時期を指す。

4. 研究成果

本研究課題による研究成果はおおよそ以下の通りである。

まず、(1)韓国における学术界における風水地理思想の再評価について明らかにすべく研究を進めた。その結果、今のところ韓国においては、1994年時点でも学術研究そのものに関する批判的見解がある中で、風水地理思想の学術的研究が歴史学・地理学・建築学主導ではじまり、後に不動産学分野等の実学的分野が付け加わり、現在まで非常に活発な

研究が行われている。なお、これは背後に占いとしての実用性を視野に入れる「在野」の風水研究が行われていることとも無関係ではないと思われる。この成果については、日本地理学会や人文地理学会において、それぞれ「現代韓国における風水地理思想に関する学術的評価 地理学分野の業績を中心として」、「現代韓国における風水地理思想の学術的評価：不動産・都市研究分野を中心に」のテーマで研究発表を行った。

またこの際に、韓国における状況と比較して、同時期にやはり「学術的な風水研究ブーム」が起こったと思われる日本における状況について対比する必要性を感じ、大韓地理学会において「日本の風水研究の回顧と展望 異文化理解としての風水研究」のテーマで研究発表を行った。

次に現代韓国における(2)行政・政策における風水地理思想の論理の利用については、「都市計画が風水思想の論理も利用しながら立案された」などの説明がなされることも多いが、実際のところ、風水を「迷信」と捉える市民も多いためか、間接的に接点もたれているように思われる。例えば、国家的環境政策である通称「白頭大幹保護法」などでは風水と関連の深い「白頭大幹」という概念を用いるものの、直接風水の術法に関連させず、その名称を使うにとどめている。また環境政策の一つと認められる「美しい林大会」顕彰制度などでは、「環境」「伝統文化」「民俗」と関わる際に限って、風水地理理想の論理が入り込んでいるようにも思われる。

他方、(3)一般社会においては、行政とは異なり、風水地理理想の用語や概念が用いられる場面を確認することができる。例えば、大統領選挙や地下鉄火災事故などと風水地理思想を結びつける新聞記事は、サイドストーリー的に用いながら、風水地理理想の用語や概念がかなり直接的に用いられている。ただしその反面、風水地理思想の用語や概念を理解できない市民も増加しているように思われ、今後一般社会における風水地理理想のすがたも大きく変容する可能性がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

渋谷鎮明、現代韓国における風水地理思想の学術的評価：不動産・都市研究分野を中心に、2018、貿易風 13 号、pp.56-67、査読無

渋谷鎮明、東アジアにおける風水の地域的差異 韓国(朝鮮)と沖縄(琉球)の比較から、2017、地理の研究 197 号、pp.63-71、査読無

鈴木一馨、村獅子と村抱護、『しまたてい』No 75、2016、pp.4-7、査読無

Bixia Chen, Yuei Nakama, and Takakazu Urayama: Dimensions and Management of

Remnant *Garcinia subelliptica* Tree Belts Surrounding Homesteads - A Case Study from Two Villages on the Sakishima Islands, Okinawa Prefecture, Japan、2016、『海岸林学会誌』15 巻 2 号、pp.1-8、査読有

鎌田誠史、山元貴継、浦山隆一、渋谷鎮明、齊木崇人、地形的立地条件から見た琉球列島における村落の空間構成に関する研究 - 近世期に発生した計画的村落の形態類型を通じて -、2016、日本建築学会計画系論文集 Vol81, NO.719, pp.11-21、査読有

渋谷鎮明、朝鮮時代の地誌と古地図に見る「気」と「脈」による国土認識、2015、地質学会懇話会報 (JAHIGEO Bulletin)、no.45、pp.4-11、査読無

〔学会発表〕(計 16 件)

鈴木一馨、沖縄における風水の民間化、琉球の「王城風水」に関する資料紹介、学術振興会二国間交流事業研究会、2018

浦山隆一、琉球の「王城風水」に関する資料紹介、学術振興会二国間交流事業研究会、2018

渋谷鎮明、崔元碩、総合討論：伝統的環境管理知識としての風水の日韓比較調査研究、琉球の「王城風水」に関する資料紹介、学術振興会二国間交流事業研究会、2018

鈴木一馨、琉球風水史、学術振興会二国間交流事業研究会、2017

SHIBUYA, Shizuaki, Between Ancient and Modern Map: A Study of the Japanese-made Seoul City Map, 'Chosen-Keijo-Zu', 25th International Congress of History of Science and Technology 2017, 2017

渋谷鎮明、『車窓の日本・朝鮮の巻』にみる戦前期日本人地理学者の朝鮮研究

砺波散村地域研究所所蔵「浅香先生資料」との関連性から、歴史地理学会、2017

渋谷鎮明、崔元碩、裨補と抱護の比較、学術振興会二国間交流事業研究会、2017

渋谷鎮明、現代韓国における風水地理思想の学術的評価：不動産・都市研究分野を中心に、日本地理学会大会、2017

渋谷鎮明、現代韓国における風水地理思想に関する学術的評価 地理学分野の業績を中心として、人文地理学会大会、2016

渋谷鎮明、すべての山は「脈」でつながっている？ 朝鮮時代の地誌・地理資料にみる山の認識、国際シンポジウム「日本と世界の山をみんなで考えよう」、2016、招待講演

渋谷鎮明、朝鮮時代の地誌・地理書にみる「水口」概念、歴史地理学会大会、2016

SUZUKI, Ikkei, An Environmental View of Noble Mansion during the 10th to 12nd Century: Japanese Garden Building and Forms Method Fengshui, The 3rd Asian Geomancy (Fengshui, Pungsu, Husui) Workshop, 2016

SHIBUYA, Shizuaki, Fengshui Inspection

Record as Data for Restoration of Village Landscape in Okinawa: A Case Study on Sonai Village Iriomote Is., The 3rd Asian Geomancy (Fengshui, Pungsu, Husui) Workshop, 2016

渋谷鎮明、日本の風水研究の回顧と展望
異文化理解としての風水研究（韓国語による発表）、大韓地理学会大会、2015

鈴木一馨、沖縄の村獅子の配置について、
日本宗教学会第74回学術大会、2015

渋谷鎮明、朝鮮時代の地誌と古地図に見る
「気」と「脈」による国土認識、地質学史懇話会、2015

〔図書〕(計 1 件)

渋谷鎮明他、GEOBOOK(ソウル)、『東アジア風水の未来を読む』(韓文)、2016、
pp.384-397

6. 研究組織

(1)研究代表者

渋谷 鎮明 (SHIBUYA, Shizuaki)

中部大学・国際関係学部・教授

研究者番号：60252748

(2)研究分担者

浦山 隆一 (URAYAMA, Takakazu)

富山国際大学・現代社会学部・客員教授

研究者番号：10460338

(3)連携研究者

鈴木 一馨 (SUZUKI, Ikkei)

公益財団法人中村元東方研究所・研究員

研究者番号：50280657

(4)研究協力者

崔 元碩 (CHOI, Wonsuk)